

千年の森便り No.268

2021.5.31

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

5月17日(日) 天候 晴れ

5月恒例の公開行事として、初夏の清和県民の森と豊英島を楽しむハイキングを行いました。5月の森は、スダシイの新芽の黄色が鮮やかで、ウグイス、メジロ、キビタキなどの声が響き渡っていました。5月としては気温が高く日差しが強い一日でしたが、午前中は県民の森を約2時間(3.6km)、午後は自然観察をしながら豊英島を約1時間散策しました。

坂本さんには地元食材を使ったお弁当の手配とハイキングの案内役をしていただきました。ありがとうございました。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、片野、坂本、清水、平野、福島の会員8名と一般の参加者9名の計17名でした。次回、6月21日(日)の活動日は、ニホンジカ生息状況調査、水辺の環境整備、危険木伐採、駐車場・電柵付近の草刈りなどを予定しています。ご参加をよろしく申し上げます。(福島)



〇県民の森ハイキング

新緑の山々を眺めつつ晴天と心地良い涼風に恵まれ、これ以上は望めない一日でした。今回の案内も毎回同じ内容では飽きられるので新ネタの仕込みもしているのですが、なかなか思うようにならないので、所々で会員の手助けをお願いしました。

皆様が色々な物に興味を示す所為もあって最初から進行は遅れ気味で、時間内に目的地まで到着できるか気を揉んだのですが、敢えて急がずに行ける所まで歩いて時間になったら車で迎えに来てもらう作戦の提案があり、この作戦に乗ったお陰で昼食は予定通りの時間に済ます事が出来て、午後の予定も支障無くこなせたので午前の担当としては何よりでした。

期待していたジャケツイバラやハンショウツルは咲き終え、林道近くのドクウツギ、ニシキウツギは刈られたのか大株が見られず、植物の案内面では苦戦となりました。救いはラッパ型のオオバウマノスズクサの花、水の滴る崖地の食虫植物であるモウセンゴケとその隣に咲いていた可憐なコケリンドウでした。

モウセンゴケが自生する一帯は民有地ですが、地主さんが丁寧に草刈りしてくれるので毎年見られます。急斜面を含む広範囲の草刈りは、刈り払い機を使っても重労働でしょう。手抜きをして除草剤でも使えば貴重な植物が真っ先に犠牲になると思います。どなたかが、「この農家さんのお陰でモウセンゴケが守られている」と言われましたがその通りです。ここの地主さんは、山の仕事で親子2世代にわたって付き合いのあった方です。今は3代目が管理しているのかも知りませんが、几帳面な仕事のDNAは引き継がれている様です。(坂本)



地図を使って見どころ案内



オオバウマノスズクサ



ケイワタバコなど崖地の植生を観察



モウセンゴケ

○豊英島の散策

清和県民の森の管理事務所の一角をお借りして昼食をとったあと、自家用車に分乗して豊英島に向かいました。駐車場に車を止め、ヘルメットを着用して準備を整えてから、通常は施錠されている豊英島への吊り橋を渡ります。湖面から 10m 近い高さの吊り橋からは、豊英湖とそれを囲む森が良く見えます。島の入り口ではヤマボウシが満開で、島の散策に訪れた皆さんを歓迎していました。

歩道を進み、島の中央付近にある千年広場で、この島はもともと陸続きの尾根だったことや、川回しにより周囲が耕作地になったこと、川回しのトンネルが落ちダムができて島になったことなどをお話ししました。

島の概要説明のあとは散策です。ナラ枯れの被害を受けて多数のコナラが枯れて倒木のリスクが高まっている状況、コナラが枯れたことにより林床が明るくなって森が変化している様子、千葉県内で絶滅が危惧されているヒメコマツの植栽試験地、島が房総丘陵の尾根であったことを示すモミ・ツガ林、島の南側のホテイチク林などをご案内しました。

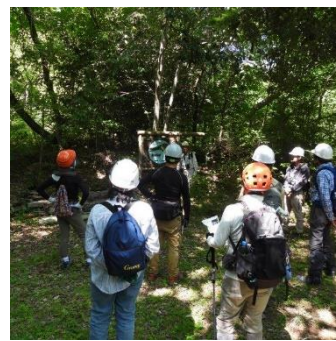
散策の準備をしている時にヤマビルを心配されていた方がいらっしゃいましたが、残念ながら今回もヤマビルに出会うことはできませんでした。(福島)



橋を渡って豊英島へ



橋の下にはヤマボウシが満開



千年広場で島の説明



豊英島の森を案内

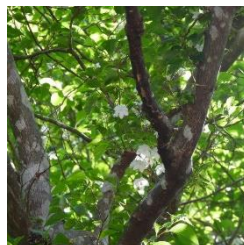
○若葉の森をハイキング

今年も林道のハイキングに参加できました。毎回同じようですが毎回違っていています。間違いなく見られる花は、ガマズミ、エゴノキ、ウツギ類、ノイバラ類、ヤマツツジ、アザミ類、コケリンドウ、モウセンゴケです。オオバウマノスズクサは株が大きくなったようです。残念だったのはハンショウヅルの花が見当たらなかった事、ジャケツイバラの花数が少なくなっていた事です。

例年は谷の下の方にあるホオノキの花を見ていましたが、橋の袂にあるホオノキがいろいろな花の形態を見せていました。1本のホオノキに硬い蕾や開きかけた蕾、満開の花、盛りが過ぎ花卉がしぼんだ花、そして最終段階の実に至るまでが手の届くような至近距離で観察できました。普段は見上げるようにしか見られない花が見下ろせる位置からじっくりと見る事ができたことは、とても幸運なことです。



ガマズミ



エゴノキ



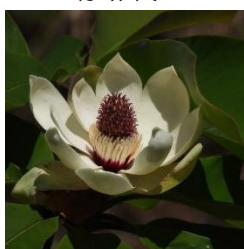
マルバウツギ



ジャケツイバラ



ヤマツツジ



ホオノキ



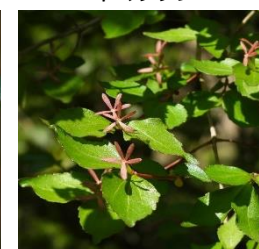
丸太を使った法面緑化



ニシキウツギ



テリハノイバラ



ツクバネウツギ

花以外で興味を引いたものに崖面があります。今までは気づきませんでしたが、緑に覆われ尽くしていた崖の一部に、岩盤が露出した箇所がありました。岩盤にL字型の鉄筋が打ち込まれ、その鉄筋に丸太を掛けて横に渡してありました。滅多にお目にかかれない方法で緑化が施され、植物が生えていました。森の景観に配慮した工法ようです。

先月、トビの抱卵を確認しました。トビは今回もまだ巣でじっとしており、孵化した様子は見られませんでした。(秋元)

〇ワクワクしながら参加（三木克之さま、好美さま）

初めての清和県民の森、初めての豊英島観察会ハイキングでワクワクしながら参加させていただきました。講師の先生たちのあまりにも深いたくさんのお話に頭がついていけない状況ではありましたが、これまで気がついていないお花や木や小さい植物などを教えていただき、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

お弁当も美味しく、おまけにずっと木陰だったので快適に歩けました。ヤマビルいなくて幸いでした。また、次の機会に参加できればと思います。皆様のご活動、素晴らしいですね。



コケリンドウ

〇赤いヘビイチゴはまずかった（田辺明子さま）

私がメモただけで41種の植物と、メジロ、キビタキ、カジカガエル、センダイムシクイ、ホトトギスの声が聞こえました。千年の森にはたくさんの生物がいるのですね。黄色いモミジイチゴはさっぱりしていて、食べられることにまずは驚きでした。赤いヘビイチゴはまずかったです。

モンセンゴケに食われる虫や、たくさんの種類のカズラを見たのも初めてです。家に咲いているミツバツツジが君津の花というのも初めて知りました。何より豊英島に1軒あったという家の人はどんな暮らしをしていたのか興味が湧きました。



ヘビイチゴ

皆さんの活動がとても大事だということがよくわかりました。また参加させてください。

〇お弁当は絶品でした（横田真由美さま）

ハイキングも植物に関しても全くの初心者ですが参加させていただきました。坂本さんや福島さんの詳しく丁寧な説明はもちろん、参加者の方も植生等知識豊富な方がいらっしゃって何より自然が大好きな方々と一緒に来たことでとても楽しい一日となりました。お天気に恵まれ、濃淡の緑の中にスダジイの新芽の黄色が輝き正しく山が笑っていました。朴の木の花を上から見ました。モミジイチゴを食べてみました。酸味は強くなってさっぱりとしていて美味です。ハコネウツギとニシキウツギの違いがわかりました。五葉松は別名ヒメコマツと言い、自生のものは希少だということ、君津市の花がミツバツツジであること、キヨスミミツバツツジの存在。また、小さな植物にも出会えました。虫がかっついていてモウセンゴケ、可愛いコケリンドウ。とても幸せな一日をありがとうございました。



虫を捕えたモウセンゴケを観察

P.S. 坂本さんの同級生の方が作られたお弁当は絶品でした。ありがとうございました。

〇次回はキノコ観察会に参加出来たらいいな（林 峰雄さま）

初めて参加させて頂きました。当日はお日も良く 5 月にしては少し暑いくらいでしたが、県民の森や豊英島の木漏れ日の中を歩き、時々風が抜けていたりして気持ちのいいハイキングでした。時々立ち止まり、講師の方の樹木や自然についての解説を聞きながら談笑して知識が深まるだけでなく、忙しい日々からふっと離れ心をリセットできるような時間でした。途中のお昼休憩で頂いた地元の食材を使ったお弁当も本当においしかったです。

次回はキノコ観察会に参加出来たらいいなと思いました。



解説を聞きながらのハイキング

〇フキの話

注文のお弁当にフキの煮物が添えられ、お土産にはフキの糠漬けがサービスされました。フキの糠漬けは他所では見かけない清和地区の珍味と思えますが、お口に合いましたか？

昭和 20 年代の我が家では、時期になると親に連れられて山に入り、何キロものフキを背負って帰ると大釜で茹で、皮を剥いて糠と塩で漬け込むのが年中行事でした。

今回のハイキングで歩いた林道周辺では、フキが何キロも取れるような大群落を見かけなかったと思いますが、当時の山と何が違うのでしょうか。その答えは炭焼にあると思います。村で炭焼きが盛んだった頃は、伐採直後の裸地状態から再生 1 年目、更に再生 30 年目位まで樹木の生長段階の異なる林がパッチワーク状に点在する事になります。その中にはフキの生育に適した場所がどこかに在って大群落を作りますから、村人は日頃から山の様子を見て何処で取れるか気にしていました。その場所も樹木の生長と共に必ず廃れて別の場所に移るのが常です。大発生と消滅はフキに限らず、ある時は野菊の一種であるリュウノウギクで山肌の一部が真白になった事もありました。

伐採と再生の繰り返しで自然はダイナミックに変化して動植物など生物の多様性が保たれていましたが、林業が衰退した今は山が単調化しているのは否めません。近頃の山ではフキが取れないので、今回のフキは休耕農地やその周辺の土手で採集したものと思います。（坂本）



初夏の県民の森をハイキング



フサザクラの種

お知らせ

〇次回の定例活動は 6 月 21 日（日）です。

二ホンジカ生息状況調査、水辺の環境整備、危険木伐採、駐車場・電気柵付近の草刈りを予定しています。人数が必要ですので会員のみなさんのご参加をよろしくお願ひします。体験参加も大歓迎です！

島に入る際は、ヤマビル、ダニ対策、安全のためヘルメットの着用をお願いします。

集合は、房総クロスヴィレッジの駐車場に 9:30 です。

<https://maps.app.goo.gl/hFKVg4mXncQZJuyU6>